

期待と希望 胸いっぱい

コロナ禍3年目の入学式

新型コロナウイルスで3度目の春を迎え、県内の中学高校で7日、入学式が行われた。感染予防のため、式の短縮や合唱の中止など制限は残るものの、勝浦市立勝浦中学校(岡安和彦校長)は、近隣の新型コロナウイルス感染が比較的落ち着いたことから、保護者らの出席を当初の1人から2人までに緩和し、新入生81人の門出を祝った。



▲新入生を代表して誓いの言葉を述べる白石さん(左)=7日、勝浦中

同校は式を短縮して30分程度にし、国歌や校歌斉唱を省略。通常40〜50人いる市長ら来賓の招待を取りやめ、在校生は会場に入らず教室で中継映像を見守った。さらに、窓の開放に加えて天井の大型ファンを回して換気。新入生は十分に間隔を取って並べられた椅子に着席。一人一人名前を呼ばれると、マスク越しに返事をして起立した。校長式辞や在校生代表

による歓迎の言葉に続き、新入生の白石愛育さん(12)が「中学校生活への期待と希望で胸がいっぱい。仲間と共に夢に向かって成長していくことを誓います」と代表でありさつ。新入生は保護者らの拍手に送られて教室に向かった。同校は消毒液が入った小型ボトルを生徒が常時携帯して感染防止に努めていて、新入生にもボトルが配られた。白石さん

制限緩和 保護者出席で「有意義に」

は「体育祭などの行事を楽しみたい。早くコロナを考えなくてもいいようになっただけ」と願っていた。

千葉市立中学校でも7日に入学式を開催。市教委は各中学校に▽式の間を30〜40分間に短縮▽合唱の原則中止▽新入生の座席の間隔を1〜2倍空けること―を求めた。出席する保護者の数なども会場の規模に応じて制限するよう各校に要請するなど、感染予防の徹底を図った。8日にある市立小学校の入学式でも同様の感染対策を行う。

全日制の県立高校118校も7日に入学式。県教委が事前に実施したアンケートでは、保護者の出席は103校が1人までにするなど、人数制限を行い、2校は別室での中継映像視聴にした。13校は人数に制限を設けなかった。県教委学習指導課の担当者は「保護者が出席した方がより有意義な入学式となる。感染対策についても、これまでと同様に徹底してもらおうと呼び掛けた」と話した。

本校の入学式が紹介されました。